北河内自然愛好会 会報

2021年1月1日　№.110
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎3-7-7
西畑敬一　方

ホームページアドレス：http://www.cc-net.or.jp/~ja3　　aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm

第418回例会「室池園地ナンバンギセル」四條畷市　　2020年9月12日（土）　太田　理

JR 学研都市線四条畷駅の、四條畷市コミュティバス停に集合。早速一般参加でもいいですか、という女性の方がおられて、どうぞどうぞとウェルカム。愛好会の活動などを少しお話しすると即入会いただきました、岡本良子さんです。今日は幸先がいいな、ナンバンギセルも見られるだろうと期待が膨らむ。

バスに乗り、逢阪で降りる。去年もこの観察会をして残念ながら時期尚早で、今年は2週間ほど遅らした日程になった。室池園地に向かう。途中あちらこちらに目をこらしながら、何かいいものがないかと。室池園地森の宝島に到着した。駐車場を過ぎてヤマボウシの木が何本かあるところ、去年はその実がたくさんなっていてみんな食べていたのに、今年は不成。その先でかわいいスズメウリの花と実が見られました。木の上の方に大きな赤い実、辺りに大きな葉が落ちていました。ホオノキです。朴葉味噌を思い出して思わず唾がごくん。また、ガガイモの花と実も見つかりました。この種はすごいです。この種を家の中でまき散らすと、ふわーっと舞い上がってきれいですが、あとの掃除がたいへんです。

やっとナンバンギセルの生息地に到達。ところが何と見当たりません。去年見られなかったそのリベンジに今年の挑戦もむなしく終わるのか、と思っていたら「あったー！でもまだつぼみ…」しかし可憐に頭をもたげているナンバンギセルの子どもに愛らしさを感じたのは私だけでしょうか。もう1週間か10日ぐらいのところでした。

そこからホテル・アイアイランドの遊歩道に入り、日本在来のヌスビトハギがあちこちにあり、よく整備された道を楽しみました。道の途中でお昼ご飯にし、みんなそれぞれに倒木や木の根っこに腰を降ろしてしばし休憩しました。その遊歩道を少し行くと薄紫のきれいな花が咲いていました。西畑さん「これカッコウアザミ」と教えてくれました。帰ってネットで調べてみると、南アメリカ原産、中国名藿香薊、多分アイアイランドの施設管理者が植えたのでしょうね。他にも大きなキノコなどもありました。

そこを出て帰路につくのですが、皆さんしんどくなったのか、バスで帰ることになり、今日一日無事終わりました。残念ながらまた今年もナンバンギセルの愛らしい姿にお目にかかれませんでしたが、またいつの日か室池園地のナンバンギセルに会えることを楽しみに！

§§感想文「先日はありがとうございました。本当に楽しかったです」岡本良子

一般での参加もOKと言うことで参加させていただきました。場所も初めてで、コロナの影響で体力も落ちているので大丈夫かなと不安を抱えながらの参加でした。しかし太田さんをはじめ皆様、温かく受け入れてくださり不安もすぐに解消しました。

人数的に少ないせいか、すごくゆったりとじっくり説明していただき、時間にあまり追われる事がないのに驚きました。ナンバンギゼルはまだ咲いてなくて残念でしたが、藪の中でひっそりと開花を待つ姿は、初めてで感動しました。その他にもホオノキの実やアケビの実、イヌビワの実、ガガイモ、ヌスビトハギ等秋の気配を確実に感じさせてくれました。イヌビワの実にだけ入るイヌビワコバチやヌスビトハギの花の不思議等も教えて頂き、本当に楽しかったです。

お弁当を食べてフルーツも頂戴して、久しぶりにコロナから解放された一日でした。参加して本当によかったです。会長さんをはじめ会員の皆様のおかげです。心から感謝です。ありがとうございました。また機会がありましたら参加させて頂きたく思います。よろしくお願いいたします。

◎参加者：稲原ヒサエ、稲原良三、太田　理、影千恵子、妹尾雅弘、長島照文、中町苓子、西畑敬一、波多野恵子、岡本良子（以上10名）

第 419 回例会「豊能町高代寺カリガネソウ観察」　　2020 年 10 月 3 日(土)　粟田泰子

曇り空ながら待ち合わせの川西能勢口に 12 名が集合、10 時 24 分の電車に乗り終点の妙見口に到着。駅前は妙見山に向かう登山者で賑わっています。我がご一行は西畑さんの解説でアオダイショウを観察した後、これから向かう高代寺の参道を 11 過ぎに出発。遅れてくる 2 人に先行して急坂をダンドボロギク、ヒガンバナ、アキノノゲシ、ススキ、斑入りススキ、チカラシバの群生、アキノエノコログサ、ツルボ、アメリカセンダングサ、アカネ、ピンクのゲンノショウコなどを眺めながら、荒れた棚田を見下ろす農道を上がると、ほどなくときわ台からの道に合流。後続の 2 人が追いついた辺りの池で小休止。水面にはオオカナダモの白い花が咲いています。

この辺りからかつては稲穂が靡いていたであろうススキの咲く棚田が広がります。現在は里山クラブの人たちが細々と活動していて、今日も何人かが作業している姿が見えます。

町石、六体仏などが点々と現れ、小流の辺りにお目当てのカリガネソウの花が咲いています。臭いが余りいいとは言えない花ですが、形が面白く自然の妙を感じさせます。カリガネと名付けた先人に脱帽です。（誰かが借り金草のことかと言っていたが、雁草です。）

夏から秋に咲くハグロソウの実、トキリマメの黄色い花、ノササゲ、ヤブサンザシの実、リンボクの幼木、ヒメジソの花、イヌトウバナの白い花、アキノタムラソウ、ホタルブクロ、ウリハダカエデ、シロダモ、コマユミ、スダジイ、ミズヒキ、チャノキ、ヤブツバキなどが参道の両側に次々と現れます。葉っぱが細く白い小さな花をつけ、姿形が華奢な一見ヤノネグサのような植物はナガバヤノネグサ、ハシカグサ、シュウブンソウ、ジュウモンジシダ、マムシグサの仲間、ユキノシタ、ミヤマハコベ、イワガラミ、アキカラマツ、ナキリスゲなども見られます。ピンク色の花を少しだけ見せてくれたミカエリソウが現れると、すかさず Y さんが「中町さん振り向いて !! 」と声をかけます。見返り美人 ??

ごろごろとした石畳が終わる辺りの広っぱでお昼と声をかけましたが、もっと見晴らしのいい明るい場所がいいと主張する御仁の一声で、もうひと頑張りして車道に上がり、妙見山が見える道際でようやくお昼ご飯。後ろには妙見山、前には花をつけた大木のリンボクと実をつけた大木のカラスザンショウが眺められるこの場所はなかなか快適です。付近にはカナクギノキやアキチョウジも見られます。

中野さんが今年犬鳴山で沢山実をつけていたと仰り、蕾も付いたキョウチクトウ科のキジョランの実を持参され、皆で鑑賞。予想外に大きく、軽くて柔らかい実はパパイヤのような形状です。蕾はとても小さかった。（漢字で書くと貴女蘭・鬼女乱それとも…）

お昼を済ませ、13 時からもう一登り、高代寺の墓地で観察。見たのはハタガヤ、ザクロソウ、コスズメガヤ、コウヤマキ、クマノミズキ、アカメガシワ、イワガラミ、沢山実をつけたカラスザンショウ、ヤブニッケイ、クロモジなど。クリ拾いする人、ススキをいただいたりカラスウリやアケビの実を見つける人、キノコを探す人もいてなかなか関心事が多様な団体です。（傷をつけると青くなるキノコは後日、ハツタケとわかりました。）

お墓から真言宗の名刹高代寺に向かいます。高野山が女人禁制だった時代に女性が詣でたお寺なので高代寺だそうです。大阪における、女人高野・室生寺の代わりのような存在です。空海お手植えと言われる樹齢 1000 年超のボダイジュとムクロジが仲良く並んで生えています。田中さんから指摘されて見まわすと、辺りには一見オオバコとは思えないがよく見るとオオバコの特徴を備えた矮小化したオオバコが沢山生えていました。鬱蒼とした森に佇む本堂の庭には苔類も沢山見られます。

本堂からツキノワグマの飼育舎に立ち寄るとオオルリソウ、ハダカホオズキ、ハカタシダが見られ、オニグルミ、ウワバミソウ、コアカソ、拾ったクリなどを熊のとよ君に与えてから下山開始。下草がほとんどなくシキミやアセビ、ホオノキ、ソヨゴ、コナラ、アラカシ、ヒイラギなどが茂る山道をたどり標高 366.8m の長棚城址（吉川城址）で小休止。その後、石ころや木の根っこで滑りやすい急坂を無言で下りようやくツブラジイの北限の八幡神社にたどり着く。入り口付近に実をつけたヌスビトハギが生えていた。神馬のイズメ嬢と対面。後はだらだらとヒガンバナの群生、ヒメミカンソウ、ナルトサワギク、コバギボウシ、キバナコスモス、ボタンヅルなど里の植物を眺め、アオチカラシバを教えてもらったり、フウセンカズラの実を割って猿面の形をした種子を見たりし

ながら 16 時過ぎに振り出しの妙見口に全員無事到着。最後まで疲れも見せず、好奇心で一杯の皆さんにはほとほと感心した次第です。いろいろと植物を教えて下さった西畑さま、田中さま、皆さんが無事に歩いているか細やかに気配りして下さった稲原さま、有り難うございました。
◎参加者: 粟田泰子、稲原良三、稲原ヒサエ、岩井幸恵、大津由紀子、影千恵子、鈴木永子、田中光彦、中野潤子、中町苓子、西畑敬一、波多野恵子、発ひとみ （以上 13 名）

§§北河内自然愛好会の皆様
謹んで新年のお慶びを申し上げます
昨年発生した新型コロナウィルスは世界中を混乱の渦に巻き込んでいます。いろいろなイベントが中止になり暮らし方が一変しました。友達と逢えない。コンサートに行けない等々。私達の日常は、何気ないふれあいに支えられていた事に改めて気付かされました。
自然や、音楽が癒してくれます。スポーツも元気を与えてくれます。映画や演劇も心に響きます。私の絵画はというと、絵と鑑賞者の心とが響き合い、世界が大きく広がり、豊かな気持を共有することを願っています。
昨年 2 月、第 6 回日展大阪展が途中で閉鎖になりました。それ以来、全国の公募展が中止になっています。私の生活は公募展への出品の制作に追われる毎日から、目標が定まらなく集中出来ない生活が 5 か月続きました。そんな中 8 月、日展だけが公募を決めてくれ、私の毎日が救われました。下がっていたモチベーションにエンジンがかかり、10 月応募出品。そして昨年に引き続き入選する事が出来ました。こうして制作した作品を会場にてご覧頂く事が私の支えとなり力になります。健康を維持しながら又制作に向き合っていけます。
この度会報に入選絵画ポストカードを同封して頂き有難うございます。小さいサイズですが、先ずは皆さまにご覧いただけること、うれしく思います。感染はまだ収まりそうにありませんが、美術館ではしっかり安全対策をして開催するとのことです。美術館にてご覧いただける方がおられましたら岡田までご連絡下さい。
※1 月 30 日総会時にチケットをお渡ししますので、連絡は 20 日までにお願いします（昨年同様 ¥1100→¥600 にて購入できます）。
第 7 回日展大阪展：2021 年 2 月 20 日～3 月 21 日 天王寺美術館
岡田三千代 携帯 090-8126-1391 自宅電話 072-961-3571

§§9/22 田中光彦さんから送られてきた情報の採録です。
＜資料＞コロナ禍における自然観察会の手引き（ガイドライン）
公益財団法人 日本自然保護協会 2020 年 8 月 3 日発行
はじめに
本手引きは、全国の自然観察指導員にむけて、コロナ禍において自然観察会を行う際の感染予防対策をまとめたものです。それぞれの現場でこれを参考にして、感染予防をしながらの活動に役立てていただければ幸いです。
本手引きは社会状況に応じて改訂することがあります。改訂した際は当会のウェブサイトに掲載するほか、自然観察指導員の皆様には会報『自然保護』、メールマガジン「しどういん徒然草」等でお知らせします。
１．自然観察会における感染予防対策の基本的な考え方
（１）感染予防対策はリスクマネジメントの一環です
自然観察会（以下、観察会という）での新型コロナウイルス（以下、コロナという）の感染予防対策は、野外でのリスクマネジメントの一環です。感染リスクの高いプログラムの回避や観察会自体の中止によるリスクの回避、予防対策を講じたリスクの低減、感染者が発生した場合を想定した被害の最小化などに取り組むことが大切です。
（２）参加者とスタッフにはリスクの存在を事前に伝える
観察会の参加者とスタッフにはあらかじめリスクの存在を伝えましょう。高齢者や基礎疾患を有する方は重症化するリスクが高くなり、特に 70 代以上でリスクが高まることが知られています。2

歳以上の子どもはコロナに罹患しても軽症や無症状例が多いとされているものの、コロナにかかりにくいわけではありません。

（３）スタッフはコロナの感染経路を理解しておく

コロナの主な感染経路は飛沫感染と接触感染だと言われています。飛沫感染対策としては互いに社会的距離を保つことと、マスクの着用により飛沫を人に浴びせないようにすることが大切です。マスクの着用は、無症状の罹患者が感染を広げる場合も多いことから、流行が見られる地域では有効な対策となります。一方で、自身への感染予防という面ではマスクの効果は限定的です。また熱中症のリスクが高まることや、幼い子どもはかえって顔に触って感染リスクを高めてしまうといったことも考慮することが必要です。厚生労働省では、２ｍ以上の社会的距離が保てる場合には、高温・多湿の環境下では熱中症予防のためにマスクをはずすように呼び掛けています。接触感染は、飛沫が付着した身体や物品を触れた手で口や鼻、目を触ることによって起きます。そのため、手洗いや接触頻度の高い部分の消毒が有効な対策となります。

２．感染予防対策と運営の工夫

ここでは基本的な感染予防対策を整理しました。各地域の状況に合わせて対策を講じてください。

（１）小さな自然観察会のすすめ

１人のスタッフが多人数の参加者を対象に行う観察会は密接・密集しやすく、また緊急時の連絡も大変です。そこでコロナ禍の状況においては、スタッフ１人あたりがごく少人数の参加者を対象にする小さな自然観察会をおすすめします。少人数に分かれることで、感染拡大も生じにくくなります。

（２）観察会の準備段階での対策

① 緊急事態宣言が出ている地域や、自治体の自粛要請の内容に活動が該当する地域では、観察会は中止しましょう。なお、各自治体では自粛要請のステージやステップを設けるところが多くありますので、自治体の情報を確認して、参加者の定員に上限を設けましょう。

② スタッフだけの下見や打ち合わせの時も、密接・密集を避けましょう。

③ 観察会当日に参加者が密集しないように、自然観察の題材にできる対象物をたくさん見つけておきましょう。

④ 手洗いできる場所や石鹸の有無を下見において確認しておきましょう。

（３）参加募集段階の対策

① 急な開催中止や感染者が出た際の連絡にそなえ、参加者全員の氏名と連絡先を把握します。

② 緊急事態宣言が出された地域からの参加は、丁重にお断りしましょう。

③ 開催１週間前以降に発熱している方や、長引く風邪症状・倦怠感があるなど体調に異常を感じる方には、参加をお断りしましょう。

④ コロナの感染リスクと、プログラムの中止・変更の可能性を事前に告知しておきましょう。（文例：自然観察会では自然を深く観察するため、自然物に触ったり、参加者同士で話したりします。可能な限りの感染予防策は取りますが、コロナの感染リスクはゼロではないことを事前にご理解の上、年齢や体調、持病などを考慮してご自身で参加を判断してください。当日は感染拡大の状況によってプログラムの中止・変更を行うことがあります。）

（４）観察会中の対策

① スタッフから参加者へ説明を行う際には、飛沫感染を防ぐため、十分な距離を確保し、マスクを着用しましょう。ただし夏季は熱中症のリスクもあるため、十分な距離が保てる場合はマスクの着用は必須ではありません。

② 各自が最低１m 以上の距離を取れるようにしましょう。小さなものに近寄って観察する際は順番に見るようにします。難しい場合には、マスクを着用いただきましょう。

③ 参加者間での道具の共有や同じ自然物を触る行為は避けましょう。道具の共有が避けられない場合は使用前後にアルコール消毒しましょう。特に目に近づけるルーペや双眼鏡・顕微鏡などは、使用者が変わる都度十分に消毒しましょう。

④ マスクを着けていては難しい観察（例：頬や唇の感覚を活かして観察する、においをかぐ、自然物を味わう、ゆったりと自然の風を吸い込む）を行う際は、参加者間の距離を最低１m 以上保っ

たうえでマスクを外してよいことを伝えましょう。
⑤ 終了後に手洗い・消毒を徹底し、それまでは手で口や目を触らないようにしましょう。
（５）開催後の対策
① 開催後１週間以内に体調に異変があれば報告していただきましょう。
② 参加者やスタッフにコロナへの感染が判明した場合は、保健所に報告し、指導された対応を取りましょう。
３．参考文献およびウェブサイトへのリンク
自然観察会の実施において、特に有益な情報を以下に掲載しました。参考にしてください。
（１） コロナについての基礎知識と、各事業者で講じられるべき感染予防対策について
・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000633501.pdf
・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード、専門家会議の見解等」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00093.html
（２） クラスター発生時の対応を含めた、野外ボランティア活動における感染予防対策について
・公益社団法人国土緑化推進機構「森林内での活動における新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び活動 継続に関する基本的なガイドライン」
http://www.green.or.jp/bokin/info/info-news/activityguideline
（３） 熱中症対策とマスクの脱着について
・厚生労働省「令和２年度の熱中症予防行動」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_coronanettyuu.html
（４） 幼児へのコロナの影響と感染予防対策について
・一般社団法人全国保育園保健師看護師連絡会「保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック第１版」
https://www.hoiku-kango.jp/index.php/2020/05/26/1215/
（５） 屋内でのイベントにおける感染予防対策について
・一般社団法人日本コンベンション協会「新型コロナウイルス感染症禍におけるMICE開催のためのガイドライン第２版」
https://jp-cma.org/news/5237/

《会員交流コーナー》＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
§§＜ナンバンギセル・リベンジ＞室池園地ナンバンギセル。昨年 8 月末に見られるかと思っていたら見事に空振り。今年はほぼ 2 週間遅らせて再度挑戦するも、やっと見つかったのが、その芽（芽を見たのも初めてでしたが）、ファールチップという感じでした。今日再度見に行って、やっとお目にかかれました。まだ咲き始めでしたが、お目にかかれました。（9/22・太田理）
§§＜教えて＞昨日、大阪市内調査瓜破方面へ行きました。出戸駅を出たところの水田にヒメミソハギがたくさん生えていました。もう何十年も見ていなかったのですが、ヒメミソハギで合っているでしょうか？教えてください。（9/22・北川ちえこ）
§§＜教えて＞●10 月 2 日大阪市平野区川辺小学校の池の中にあり沈水性だと思います。細い葉はヒレ状、左右トゲトゲでした。アップの写真がうまく撮れません。分かりましたらお願い致します。
●10 月 5 日　大阪市浪速区大国小学校前、ノゲシでいいでしょうか。最近このようなとても茎が太い１本立ちのノゲシをよく見かけます。（10/7・北川）
§§＜岡田三千代さん、またまた快挙＞昨年に続いて日展に入選したとのメールをいただきました。「ソーイング」のタイトルで一連の連作をなさっていいるようです。東京展は明日からで、大阪巡回展は来年２月～3 月になるようです。まずはご一報まで。（10/29・太田理）
§§＜上記返信＞岡田さん今年もまた、凄い。岡田さんの絵にこもっている彼女の感性、いつ見ても息を飲みます。大阪での展示待ち遠しいですね。（10/29・平　研）
§§＜コサギのねぐら？＞いつもお世話になり、ありがとうございます。コロナという見えない敵との戦いに明け暮れた2020年も残すところ1週間になりました。お変わりなくお過ごしでしょうか？

私は家に籠る毎日ですが相変わらずウォーキングだけは日課として続けています。
　先日（21 日冬至）のウォーキング時に、友呂岐緑地（寝屋川市）の大きなアラカシ（多分）の木に、白い鳥が何羽もとまっているのを見つけました。夕方 5 時ごろで既に薄暗く、目を凝らしてみてもどんな鳥か分かりません。あの周辺で私に思い当たる白い鳥はコサギぐらい、コサギは水辺の鳥では？と思いながらスマホで写真だけ撮ってその日は帰りました。
　翌日もう少し早い時間に行けば少しは明るくて良く分かるかな？と再訪しました。4 時 45 分、鳥の姿は全くありません。諦めて水路のカモたちを見ながら歩いているとその方向からガーガーという賑やかな鳥の声、振り返ると 1～2 羽の白い鳥が飛んでくるのが見えました。そしてその後次々と賑やかな鳴き声と共にやって来て、あっという間に 10 羽ほどが木にとまりました。そして頭を羽に埋めてお休みモードに。時刻は 5 時でした。くちばしや足の色は確認できなかったのですが、姿かたちからやはりコサギではないかと思います。コサギのねぐらだったのでしょうか？分かりにくい写真ですが添付します。ご確認をお願いします。（12/24・鈴木永子）
§§＜上記返信＞この観察とコサギへの想い、素晴らしい表現、私自身が見ているような…。有り難うございました。（12/24・平）

◎異動：（敬称略）
退会：木村文子（9/21・大東市）昨年にご本人から退会の申し出が有りましたが当方の手違いにより退会手続きが本日に成りました。お詫びしてご報告します。
10 月 2020 年度会費未納による自動退会者
　南出光永（枚方市）、樋渡吉子（高槻市）、里見修（大阪市）、岩本節子（大東市）
入会：岡本良子（9/12・寝屋川市）

◎編集後記：コロナ禍、何とか例会がもたれましたが、皆さんの思いが報告や会員だよりに表されているようです。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。（太田）

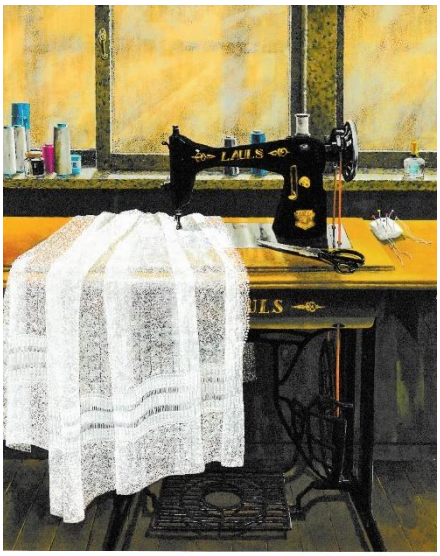
【諸連絡の窓口】　◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114
◇会費の納入・会計に関して：稲原良三　072-892-8507
◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665　会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。　ma36ux75ml@kcn.jp　〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会　年会費 1000 円　郵便振替　00970-4-103735

目　次
第 418 回例会「室池園地ナンバンギセル」太田　理----------1
§§感想文「先日はありがとうございました。本当に楽しかったです」岡本良子----------1
第 419 回例会「豊能町高代寺カリガネソウ観察」粟田泰子--2
§§「北河内自然愛好会の皆様」岡田三千代----------3
§§コロナ禍における自然観察会の手引き（ガイドライン）--3
会員交流コーナー----------5　異動、編集後記---------6
カラ―グラビア版---別刷　例会案内----------別刷

-

岡田三千代さん 2020 日展入選作品「ソーイング」
カラーグラビア版でご覧ください



改組 新 第7回日展(2020)　ソーイング　岡田三千代